

第2回 地域コミュニティ活性化に関する懇談会で挙げられた主な視点

- 団体運営（地域の組織）に関すること
 - ・ 団体運営の点で、地域における連携や団体の横串の組織は重要である。
 - ・ 地域の各種団体が連携する場合に中心となる組織について考えることが重要である。
 - ・ 縦割りの地域団体はもう少しまとまってもよいのではないか。
 - ・ 住民主体による組織運営を進めるためには、合意形成の方法やスケジュールなどを定めたビジョンの策定が重要である。
 - ・ 町内会が担うべきものや位置付け、これからの地域コミュニティをどう捉えるかについて整理する必要がある。
 - ・ 安全・安心なまちづくりは、コミュニティ活性化における大きなテーマであり、防災・防犯、交通安全、福祉活動などについて各種地域団体が参画して考えることが重要である。
- 財源に関すること
 - ・ 今後の地域の組織を考えるに当たり、財源確保について考える必要がある。
 - ・ 団体の連携強化に当たり、行政から縦割りに流れている補助金をどう水平移行するか検討する必要がある。
 - ・ 地域活動が継続できるような補助金のあり方や、協同労働という選択肢も含む地域における自主財源確保について整理することが重要である。
- 活動の担い手に関すること
 - ・ リーダー層とリーダーを支える層の育成、地域との関わり方について個人レベルで接点を作り、関心はあるが活動していない層を巻き込む方法など、地域活動への関わり具合に応じて考えることが重要である。
 - ・ 地域コミュニティの活性化において、町内会の加入促進は重要である。
 - ・ 大学生や青年会議所、NPO等、若い力や新しい外の力を取り入れることが重要である。
 - ・ 子どもなど将来の担い手の確保のためには、歴史認識などを通じた郷土愛の醸成が重要である。
 - ・ 現役世代にとって、地域活動に参加するためには勤務先の理解が重要である。
- 地域特性に関すること
 - ・ 各地域が取り組むに当たり、地域性、地域資源、地域課題などを認識することが重要である。
 - ・ 地域コミュニティ活性化ビジョン（仮称）では、広島市全体に共通する対策を示しつつ、各地域で個別に参考にできるように示すことが重要である。
- 活動内容に関すること
 - ・ ウィズコロナやアフターコロナの視点から、人が集まって行うイベントと集まらなくてもできる地道な活動を並行していくことが重要である。